

議会報告会（令和7年4月）報告書

開催日時	令和7年4月8日（火）午後6時30分から8時まで
開催場所	舞鶴市役所 本館4階 議員協議会室
参加市民	6人
出席議員	肝付隆治（議長） 野瀬貴則（副議長） 山本治兵衛（議会運営委員会委員長、新政クラブ議員団幹事長） 川口孝文（議会運営委員会副委員長、自民党鶴政クラブ議員団幹事長） 高橋秀策（超党・市民ファースト議員団幹事長） 上羽和幸（公明党議員団幹事長） 小西洋一（日本共産党議員団幹事長） 合計7人
内 容	
【全体概要】 1 開会（副議長が司会進行） 2 開会挨拶（議長から開会の挨拶と議会報告会の趣旨の説明） 3 実施要領説明（副議長から当日の内容と進め方を説明） 4 舞鶴市の現状等説明（議長から舞鶴市の現状と議会の取組を説明） 5 3月定例会の概要説明（委員長から3月定例会の概要を説明） 6 質疑応答（4と5についての質疑応答） 7 意見交換（舞鶴市の将来のために取り組むべきことについて意見交換） 8 閉会挨拶（議長から閉会の挨拶） 9 閉会	
【議会からの説明事項】 《舞鶴市の現状等》 ・ 舞鶴市の人口（人口の推移、年齢区分別人口の推移と予測） ・ 舞鶴市の予算（目的別歳出予算の平成11年度と令和7年度との比較） ・ 舞鶴市の財政（人口推移と財政力指数の近隣市との比較） ・ 舞鶴市議会の活動事例（議会基本条例と実行計画計画、市への政策提言） 《3月定例会の概要》 ・ 令和7年度当初予算と令和6年度補正予算（予算編成の基本方針、予算規模、目的別歳出の内訳、特徴的な予算の内容） ・ 請願（請願に賛成の意見と反対の意見）※資料提示のみで説明は省略	
【質疑応答の概要】 Q. 令和7年度の予算は、約404億円で、市政始まって以来最も大きい予算を組んだとされているが、人口が減少していき、税収も減少していく中で、この予算規模に不安を抱いている。 もちろん補助金も使うのだとは思いますが、大きな借金もするこの予算を議員がどう思っているのか聞きたい。 A①. 404億円という予算規模が適正なのかどうかは、審査のポイントの一つであつたと思う。 判断の基準としては、予算内容のそれぞれの項目をしっかりと審査し、財源として市債、いわゆる借金をすることについても、市債の発行額の30%や50%などが、国からの交付金として措置されることを確認しており、借金が大きくなるが、現在の財政状況を踏まえても、財政破綻の恐れはないと判断している。	

ただし、予算が成立したから終わりというわけではなく、予算の執行についてもしっかり監視し、決算の段階においても、予算案に賛成したことが正しかったのか厳しくチェックしていく決意をもって賛成した。〔山本委員長〕

A②. 令和6年度に比べて市債が22億円ほど増加しているが、約20億円は、西消防署の建設に充てられる。

西消防署は、老朽化等により建て替えが必要となっており、補助金や交付税措置のある市債などにより、整備することになる。

現在だけ・将来の世代だけに負担がかかることのないように、市債を発行して30年かけて順次返済していくことで、平準化を図るというもの。

できる限り有利な補助金や市債が利用できるように、議会も市と一緒にあって関係省庁等へ要望活動等を通じて働きかけていく。〔肝付議長〕

Q. 「こどもまんなか」をまちづくり施策の中心に位置づけるとされているが、子ども食堂について触れられていないのはなぜかを聞きたい。

A. 議会の取組説明の中で、子どもの居場所づくりに関する政策提言を行ったと説明したが、それも踏まえて、令和7年度予算として、「子ども・若者の居場所づくり支援事業」が計上されており、子ども食堂にも十分に活用できる制度となっている。〔野瀬副議長〕

Q. YouTubeを通じて議会を観ており、議員の皆さんが真剣に議論し、予算などが決まっていることが分かったが、これを知らない市民も多いと感じており、各地域等でしっかり伝える必要があると思うが、どのように考えているのか。

A. 先ほどの質問にもあったように、404億円という史上最高額の予算に疑問を持ったが、体力があるうちに将来のための整備をしておくことも必要ではないかと考えている。

議会・議員は、行政の仕事をチェックすることであり、厳しいことも言わなければならないし、反対する議案もあるが、ただいまいただいたご意見を大切にしてい、これからも市民の皆様のために、予算決算のチェックなどに取り組んでいきたい。〔小西議員〕

Q. 地域医療最適化の検討において、5つのパターンを検討していくとされているが、市長は、将来的には1つに統合されることが望ましいとも発言されている。このことについて、どのように思っているのか聞きたい。

A. 判断基準は、いろいろあると思うが、市長の発言は、理想として、将来的には1つの病院になることが望ましいということだと思っており、それをすぐに実現することは困難で、段階を踏んで進めていく必要がある。

経営母体が異なる病院の関係者それぞれの理解を得ながら、将来の人口や、入院・通院などの患者数の予測、また、医師の派遣元であるを担う府立医大の判断などを踏まえる必要もあるため、一度にできることではない。

各病院も、最終的には1つの病院が望ましいとの見解は一致しているものの、現状において、どのように進めていくのが最適かということで、5つのパターンが示され、検討していけるものと理解している。〔上羽議員〕

【意見交換の概要】

□ 自治会など地域の力を高めて、自ら考え、行動することが市民参画につながると思えることから、自治会等への教育や支援が必要と考える。〔参加者〕

◇ 自助、共助という意味では、本年の総務消防委員会において、自分自身や大切な人たちを災害等から守るためには、どうすればいいかを市民の皆様一人ひとりに考えていただくことが必要ということで、自助、共助を根付かせるためには、どのようなことが必要かを検討していくこととしており、市民の皆様との意見交換を行う「市民と議会のわがまちトーク」も、そのテーマで開催する。

自治会組織の育成やサポートについても考えていきたい。〔川口副委員長〕

- 不登校の出現率が高い状況は、大きな課題だと考えている。
「こどもまんなか」の社会を目指すと言われていた中、不登校となった後のケアはいいと思うが、不登校の児童・生徒を発生させない取組をもっと考えなければならぬと思う。〔参加者〕
- ◇ 不登校問題については、教育委員会としても、しっかり取り組まれていると感じている。
先ほどのご意見の自治会組織の大切さにも関係すると考えており、家庭や学校だけに任せるのではなく、地域で育てていくという考え方が、問題解決につながるのではないかなと思う。〔高橋議員〕
- 確かに学校の先生ができることにも限りがあると思うので、地域も含めて検討していくべきことだと思うが、学校の先生をされていた小西議員は、どのように考えているか聞きたい。〔参加者〕
- ◇ 子どもの数は減っていて不登校の出現率が上がっているというのは、日本全体の問題であるが、舞鶴市の出現率が高いので、地域、学校、市、教育委員会、市議会が一緒になって、その解決に取り組んでいきたいと思う。〔小西議員〕
- 市民は、市や市議会が何をやっているのか、興味を持って情報を取りに行かないと分からないという状況で、YouTubeなどを含めたSNSもチェックしているが、要点をまとめた発信ができていないのではないかなと思う。〔参加者〕
- ◇ 情報発信は重要で、舞鶴市議会基本条例にも、その理念は書き込んでいる。
YouTubeでは、定例会の概要を議長が報告する動画や、委員会の活動を委員長が報告する動画など、できるだけ簡潔で分かりやすい発信に努めている。
おっしゃるとおり、実施していることが、なかなか分かりにくく、全ての情報を探し出して参加していくということは難しいかもしれないが、市政に参画する方法は様々あり、自治会に加入することやPTAに加入することも市民参画の一つであり、そうした身近なところからご協力いただきたい。
議会としても、市民活動との連携や情報発信には、今後とも努力していきたいと考えている。〔上羽議員〕

※ アンケートに記載いただいた質疑・意見とその回答は、別紙に取りまとめている。

【総括】

第1回目の開催ということもあり、時間配分等の課題もあったが、ご参加いただいた皆様からは、「市政や議会について理解する機会となった」、「今後も継続して開催してほしい」などといった感想をいただいております。議会報告会の開催目的である議会活動に係る説明責任を果たすことや、市民の皆様の多様な意見を的確に把握することについて、一定の効果があったものと考えています。

今後、より良い意見交換の場となるよう改善や工夫を重ねながら、毎定例会の翌月（次回は令和7年7月開催予定）を目途に、継続的に開催する。